



## 【苦しみ連続の人生の中での逆転と勝利】

聖書本文:士師記11章1-11節/暗唱:詩篇23篇4節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安でみなさんの心も体も守られましたか。先週分散礼拝が再開したばかりでしたが、今週木曜日から2月7日まで愛知県も緊急事態宣言が出され、また役員会では何よりも、コロナ感染からみなさんの安全と予防強化の為、2月7日に緊急事態宣言が解除されるまで、本日から、24日、31日、2月7日まで4週間、オンライン礼拝で捧げることになりました。また、しばらく日曜日となっても共に礼拝を捧げる事が出来ず、みんな寂しい思いとなりますが、みなさんの家庭でご家族と共に主のご臨在の中で、礼拝中心とした家庭としてしっかり守られ、恵まれ祝福されていきますように切にお祈り申し上げます！そして、各牧場の場合も、なるべく2月7日緊急事態解除まで、直接集まることは控えて、オンライン(ZOOM)で行うか、お休みにするか各牧場で決め行って下さるようお願い致します。牧場の家族が直接集まれず、さらに寂しくなりますが、是非牧場の家族がこの時こそ、お互いにメールや電話でやり取りしながら、お互い励ましとなり、キリストの愛を分かち合い、実践し活用出来る時となりますように切にお祈り申し上げます。最小限早天祈り会(火～土:朝5時半)のみ通常通り行き、他の子ども、ユースのアナクラブや聖書学び会、水曜夜祈り会などは2月7日緊急事態宣言が解除されるまで、お休みさせていただきます。特に、その中で、すでに子どもは学校に通いながら、通常通りの生活となっている中でアワナが一か月以上お休みとなるので、願わくは、各家庭で親の方々がアワナハンドブックを通して、子供たちが神様の御言葉から離れないように、サポートし、励まし、勧めてくださるようお願い致します。何よりも、歯止めがかからないコロナ感染の拡大が速やかに治まり、いつもの教会で信仰生活が守られ、共に礼拝を捧げ、子供たちもアワナで集まれるように続けてお祈り下さるようお願い申し上げます！

そして、最後にみなさんが捧げた各家庭での献金は、1月最後の週31日礼拝後12-2時まで、教会の会計の担当者に渡して下さるか、平日中教会に寄って献金箱に入れて下さっても構いません。もしくは、礼拝に来られる日に持って来て下さっても構いませんので、よろしくお願い致します。教会の会計が厳しい中今年も続けて守られるようにお祈り下されば幸いです。

## &lt;① 裁きつかさのエフタの時代&amp;背景&gt;

旧約聖書の中士師記に出て来る裁きつかさ(士師)の意味はヘブル語で‘ソペティ、シヨペート(shophet)’と言います。その意味は言葉どおりに‘民の訴訟(そしょう)を裁判する者’という意味として‘裁きつかさ’、もしくは‘治める人(judge)’、‘救う者(deliverer, savior, 士師記3:9)’という意味もあります。イスラエルに神様によって王が立てられる前の約350年間(1388-1052年BC)、神様は13人の裁きつかさたちを立たせ、彼らをイスラエルの民たちのために用いてくださったことが分かります。イスラエルの民が罪を犯し、墮落して周囲の国々の圧制に苦しめられると、イスラエル民は神様に赦しと助けを求め、神様は裁きつかさを立たせ、イスラエルの民を赦し、救ってくださいました。しかし、神様が救ってくださると、また時間が経てば、イスラエルの民は再び罪を犯し、また神に背をむけることを繰り返すとなり、その罪の結果、苦しめられると、また神に赦しと求め、赦され、救われる！こういう悪循環のサイクルが7回も士師記で続けられているのが分かります。「罪-圧制(苦難)-懇願(求め)-赦し&救い」

士師記の時代は一言で言うと、旧約の霊的暗黒期だったと言えます。士師記はこの時代のイスラエルの民たちの状況を士師記では、「そのころイスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。」と聖書箇所が、二度も同じく表現されています。(士師記17:6,21:25)

「(人々が)それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。」ということは、まさにこの時代に守るべきルールも、規範もない無法の時代だったという意味です。各自分たちの考えと行動だけが正しいと思い込んでいたので、人の墮落と不正と腐敗だらけで、どんな時代の時よりも深刻な罪深い時代になりかねなかったでしょう。これがまさに暗黒時代になった士師記が書かれた時代の特徴です。まるで、教会歴史の中でも中世時代が霊的暗黒の時代だったように、旧約の時代、裁きつかさの時代というのはイスラエルにおいて霊的に一番暗い時期だったかも知れません。

今日の本文のそのような暗い裁きつかさの時代、特に、裁きつかさの中とても有名な人だったキデオンの時代が終ってから、二人のトラとヤイルという人たちが続いて裁きつかさとしてイスラエルで働いていました(士師記10:1-5)。しかし、イスラエル人たちがまた罪を犯し続けていたの時、神様は周囲のアモン族がイスラエルに攻撃し、特にそのためギルアデの人たちは苦しめられていた時代に現れた人物がエフタでした。

## &lt;② 苦しみ続けられるエフタ(Jephthah:意味:“彼が開いた”と言う意味)の人生&gt;

今日はイスラエルの13人の裁きつかさの中の八番目の裁きつかさだったエフタについてともに御言葉をとおして考えたいと思います。神様に選ばれたイスラエルの指導者、もしくはイスラエルの軍隊の指揮官だったとは言え、みな祝福された家庭や環境で育てられたわけではありません。エフタの場合は信仰深い家庭でもなく、むしろ生まれる頃からとても不幸な環境や苦しい状況の中で成長しなければなりませんでした。

エフタの父であったギルアデという人は、若かった頃、快樂に酔っていてある遊女の女と関係をもったことで命をさずかり、男の子がその遊女の女から生まれたのがエフタでした。彼の父ギルアデは良心的だったのかエフタを自分の家に連れて来て育てます。たとえ、エフタは遊女の女から生まれた出生背景であっても、エフタは気おくれするなく、頭が良く、戦いにも才能があり上手で、リーダーシップもあったようです。

いつからかははっきり分かりませんが、エフタが頼れる存在が周りにいなかったのか分かりませんが、エフタは早くも神を心から信じ、しっかり神に頼りつつ、育てられたようです！おそらく小さい頃から抱いていたその信仰のゆえに、小さい頃から他の人と違ったさまざまな逆境や苦しい時をよく乗り越えて来たのではないかと思います。

しかし、エフタのまわりの環境はますます苦しみが続きます。問題は父であるギルアデが正式に結婚をしてから、父親の正式な妻を通して、さらに多くの息子たちを産まれることにより、悪化されます！小さい頃はただ自分だけ何とか我慢すれば(なぜ自分はこんな風に生まれたのか、自分はお母さんもないのか自分の中の迷いなど)大丈夫だったのが、違うお母さんから生まれて来た子供たちが大きくなればなるほど、いじめは一層ひどくなり、ずっとエフタを苦しませ続けたことが分かります。どれほど、エフタのお母さんが正式に結婚して産んだ正式な子供でもなく、それとも一番身分の低かった遊女の女だからと言ってどれほどあざ笑いながら、エフタは過ちで生まれた存在、この家の恥のような存在、必要じゃないゴミのような乱れた存在かのように家の中で無視され、さげすまれ、軽蔑されたのでしょうか。

きっとギルアデの妻から生まれた子供たちがエフタだけがいなければ、この家は、我が家族は幸せなのにといつも追い出そうとし、いじめ続け、苦しみに続けていたのか、彼が子供の頃から経験した家庭というのは幸せはとにかく、普通の環境でもない、傷だらけで、耐えがたい環境だったのではないかと十分想像出来るでしょう。

みなさんも、だれかが自分のことではなく、親のこととか、家族の事とか、出身のことや自分の弱点についてうんうんされると、どれほどプライドが傷つけられ、なかなか我慢できないと思います。しかし、エフタは小さい頃からの母親が違う兄弟たちからいじめられてもぐっと続けて忍耐し続けていたことを推し量ることが出来ます。エフタはののしられても、いじめられてもサムソンのように感情的に爆発したりそうならず、そのまま仕返した内容はどこにもありません。彼の中にある神様への信仰が耐え忍ばせたのではないのでしょうか。

それに、家の兄弟たちが見てさらにやきもちに燃え上がった理由は、エフタが身分の低い、恥づかしい遊女の女から生まれたみじめな出身なのにもかかわらず、エフタが他の子どもたちよりも、優秀で、何をしても優れた能力も持ち、勇士のように戦いにも、リーダーシップもあって、他の人たちからよく認められている姿が、家の中別のお母さんから生まれた子供たちにとっては自分たちがエフタに及ばないことにも相当の気にもやる存在、嫌な存在だったのではないのでしょうか。エフタは家では優れても問題児みたいに扱われたのは間違いないと思います。

ところが、エフタの苦しみはさらに続きます。今回はさらに深刻で厳しい状況に置かれてしまいます！2節で、当時のイスラエルの法として、結婚した正式な妻から生まれた子供以外には財産を分けることはできませんでした。ですから、エフタには正式に結婚したお父さんの妻から生まれた子供ではなく、遊女からの息子だったので、一銭の遺産相続も受けることが出来ない状態でした。そして、エフタの父ギルアデの妻によって生まれた子供たちが成長した時に、その兄弟たちに目障(めざわ)りの存在であったエフタを結局家から追い出すことにします。それに、自分たちの力では足りなさそうだったのか、町の年配の長老の方々の助けと力をも借りて追い出すことに成功します。“この汚い遊女の子供が我が家の財産を奪おうとし、自分たちを脅かしているのだ！”と嘘ついたのでしょうか。賄賂で取引をしたのでしょうか。結局、エフタを“えいっ！お前のような汚いものは我らの町にははならん。出て行け！”と追い出しました。

愛する教会の信仰の家族のみなさん！それに、ただ追い出したのではありません！3節を見ると、ただ住んでいた町から追い払われるぐらいだけではなく、二度とイスラエルに現れるなど命に脅かされたのか、イスラエルの他の町にも住むことが許されず、逃げた状態で、今日、シリアの地のトブというところまで行ってやっと住んだと書かれているほど、イスラエル国から追放(ついほう)されていたことが分かります。

そんな苦しみ連続のエフタは悲しみもだえつつ、家の家族だけではなく、町や、同じ民族であったイスラエルから捨てられ、離れないといけません。エフタがシリアにあるトブというところまで逃げて、そこで住み着きます。しかし、人々は彼を裏切り、捨てたかも知れませんが、神様はずっと彼から離れず、彼の人生を見つめ続けておられ、彼の人生を諦めませんでした！

逃げて来たシリアのトブという地でも、神はエフタとともにおられ、彼に与えて下さった賜物を生かし、発揮するように、エフタを用いて下さいます！彼にあまりにも苦しみの中、知らないうちに益々強く鍛錬され、訓練され、磨かれて人格とリーダーシップ、戦える力に色々な理由で苦しみの中でさまよっていた人々がエフタのところに寄せられて来ます。遠くからうわさを聞いてエフタとともに一緒にしたいのだと懇願し、集まって来ました。ならず者(3節、新改訳3版「ごろつき」)つまり、この人たちは社会で罪を犯した人たち、人々から疎外され、捨てられた人たち、仕事がない人たちなど、人生の生きる目的が分からずさまよっていた多くの人々でした。しかし、エフタはそのような人たちであっても全部受け入れ、ともにします。エフタ自身こそ、彼らの恨み、苦しみ、悩み、辛さ、裏切り、嘆き、悲しみ、さまよいの痛みを誰より、経験して来た者だからこそ、そのような人々を理解、情け深い受け入れられる広い受け皿のような存在となって来たのではありませんか。あっという間に数十人、数百人、数千人までになったかも知れません。

彼らの指導者としてリーダーとなったエフタはそこで神から与えられた才能を生かして、希望を失った人々にチャレンジを与え、寄せられた来た人々を訓練し、教え一つのイスラエルにも噂になるほど大きな勢力になったでしょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！神様には過ちも、失敗も決してありません！エフタが生まれたのも、光が見えない苦しい、辛い人生のトンネルを続けて歩かせたのには、人が知らない神の素晴らしい計画があった事が分かります。このようにエフタを用い、将来、イスラエルを救い、多くの人を生かし、導く神の者として、用いるためのすべてのことがプロセスにすぎなかったことをエフタを通して、我らは教えられます。今の全世界のコロナという暗いトンネルを神が許し続け、通らせて下さっているのにも、決して神の過ちでも、失敗でもなく、今が御旨すべてを計り知れないですが、将来この世に、我ら一人一人に必ずご計画と目的があり、ついには必ず我らに益として下さるようにして下さいを我ら共に信じていることが出来ますように切にお祈り申し上げます！！

もしも、エフタが兄弟たちから追い出されたとき、人生を悲観し、恨めしく“神様、どうしてですか、どうして、私だけにこんな苦しみばかり、連続にさせるのですか”、“どうして私だけ遊女の母から生まれさせ、こんなに無視され、追い出されようにまでさせるのですか。”、“私にどんな罪があるのでしょうか？ どうして私だけにですか？ もう疲れ果てています。もうこれでおしまいです”自分の人生を悲観したあまり、自殺を図ったり、自分をずっと苦しめ続けて来た兄弟に復讐したというのであれば、エフタの内容は聖書に記録されなかったでしょう。かりに、そうなったのであれば、エフタは聖書に記録も、裁きつかさとして選ばれ、神に大いに用いられることも一切なかったでしょう。しかし、エフタは自分の人生を悲観しませんでした！自分の人生をどんな時にも決して諦めませんでした！追い出され、逃げられる状態に追われても、その人たちにすでに持っている自分の力で復讐しようとしたり、恨みながら戦おうとしませんでした！！

なぜ、どうして、そのように出来たのでしょうか。どうして、環境や周りの状況、他の人々に振り回されず、流されず、動揺されず自分を守る事が出来たのでしょうか。

世の全ての人々が全部自分を捨てても、自分を決して見捨てることも、離れることもされないお方！神様を全てを尽くして信じていたからです。みんなが変わり、みんなから裏切られても、永遠に変わらず、自分の味方となって下さる神様の存在がいつも自分の中に共におられますからという確信と信仰のゆえに耐えられたのです。

人々から、どんなに過ちで生まれた存在、ゴミのような乱れな存在だと言われ、こんなつらい人生であっても、神様がこの世に生まれさせて、今、ここまでわが命を守り、生かして下さいには、わたしに対するきっと、私への神の特別な目的と使命があるだろうとそう信じていたように感じられます。

彼にはこのような信仰があったゆえに、自分の人生をあきらめたり落胆したり、挫折し落伍者にならず、忍びつつ乗り切って来ることが出来たのではありませんか。

困難の時、試練の時こそ、その人が持っている信仰が試され、信仰の状態が分かるようになります。

神様を心から信じますと口先では言いながらも、目の前のことや今の現実だけが全てとなり、神の存在と信仰は後回しにしてしまうため、まったく神の御力、信仰の真の力を体験出来ず、すぐあきらめ、すぐ落胆し、忍耐しようとしなくて感情的になったり、悲観的になりやすい傾向が我らにはないのでしょうか。困難の時に人はすぐ目の前のことしか見れないかも知れません。しかし、神を見上げると、今のこの問題、この試練、この現実を向こうの先のところが見えて来ます！そして、今が決して、全てではないことを認め、今の時を通して、神様がなさろうとする御業を信じ、希望と期待を抱けることが本物の信仰の力ではありませんか。エフタの現実はみじめでしたが、神様への絶対信仰だけは続けて握って守りました。そして、どんな時にも人より、神様の存在を先にし、神のみにたよりつづけたことが分かります。

### <③逆転させ勝利させる神様>

人生の手におえない様々な問題と苦しみにあきらめないで、希望と望みをただ、神様に持ち続けて来たエフタについて神様はチャンスを与えて下さいます。神様の時に神様は神の方法でエフタを逆転させ、用いて下さいます。今自分の母国であるイスラエルには隣の18年間苦しみ続けて来たアモン人たちからのまた激しい攻撃を受け危機に陥られているのに、イスラエルを救える頼れる勇士がだれもない状態だったそうです。ようやく、人々はエフタを思い出します。‘エフタがいたなら、彼の知恵と力によって勝てるのに...いまエフタは何をしているのかい？’トブという地に住んでいると聞いた国の有力者である長老たちはエフタに直接助けを求めにトブの地にまで訪ねました。すると、もし私なら、以前追い出された傷を思い出し、しばらくでも断固と断ると思うのに、エフタはそうしません。ギルアデの長老たちが切にお願いすると、エフタはそんなに待たずその場で快く承諾(しょうだく)します。

そして次のエフタが話した言葉に注目して見ましょう。9節をご一緒に読んでみましょうか。「エフタはギルアデの長老たちに言った。「もしあなたがたが私を連れ戻してアモン人と戦わせ、主が彼らを私に渡して下さったなら、私はあなたのかしらになろう。」」

このエフタの言葉にはただ自分が国の王になろうとする野望の内容ように見えますが、核心的な大切なポイントは彼の言葉に神様が入っています。その言葉には神様が中心に刻まれています。“神様が渡して下さったなら、神様が許して下さいなら、神様が助けて下さるなら...”

そして、本文の11節「エフタがギルアデの長老たちと一緒に行き、民が彼を自分たちのかしらとし、首領(しゅりょう)としたとき、エフタは自分が言ったことをみな、ミツパで主の前に告げた。」を見ると、戦争に出かける前にエフタはイスラエルの民たちが礼拝していたミツパに行って神様に心を注ぎ出し、神に求め、祈っています。もう一度自分が戦う前に、まず、最優先に神の前に出て、全てを正直に打ち明け、さらけ出し、主の御助けを切に祈るエフタの姿を見ることが出来ます。エフタは苦し

い人生を送って来ましたが、彼には何かする前に、どんなときにもまず、神様に相談し、神に頼り、神の助けを求めることを一番優先であって、大切だったという証拠ではありませんか。エフタはいつも神中心、神優先とした信仰を堅持していたことが分かります。

自分には神様しかないかのように、大切な戦争の前に、まず、神の御前に出ていきます。どれほど、徹底的に神様中心、神様との関係を最優先に保って来た信仰者であるか分かります。神様は神様の時に、人々からののしられ、捨てられたエフタを逆転させ、イスラエルの人々の前に高くあげ、イスラエルの裁きつかさとして立たせ、勝利を与えて下さいました。

エフタを見ると、その以前他創世記に出て来るヨセフと結構似ているように見えませんか。ヨセフも兄たちに憎まれ、兄貴たちによってエジプトに人身売買され、奴隷になり、裏切られ、また、誤解され牢獄まで傷だらけで、苦しみの連続の人生でしたが、ヨセフも人生をあきらめはしませんでした。なぜなら、彼にも続けて神様のみを、信じ頼り、見上げて続けた信仰があったからです。みなさん、苦しい時、周りをふりむいて見ると、だれも見えない時があります。しかし、信仰の目をあげると見える方があります。それは我らの救い主イエス・キリストです。インマヌエルの神は今も、いつも私たちとともにおられます。ヨセフも、エフタもほかの人たちにより、傷だらけで、一生涯恨みと仕返すことに執着したならば、未来と希望のない人生で終わってしまったかも知れませんが、神様への絶対信仰を立たせ、信仰によって進ませ、信仰によって、貫き、神のご計画通り、問題を逆転させ、勝利に導いて下さったことが分かります！愛するみなさん！我らが信じている神様はそのようなお方であり、今も変わりありません！それを信じますか。

彼らが自分たちの中にあるくやしさを、自分たちに傷つけ、捨てた多くの人々に感情的にならず、自分で直接仕返ししようとしませんでした。そして、その問題を完全に神様にゆだねまかせました。“神様、今の私の辛い心をご存知です！私の今の悲しみと恨み、くやしさをあなたはすべて知っておられます！これらのことに私が沈まれないように、私の信仰が揺るがされないように、心が苦しくて分かれないうちに私を強くし、助けてください。今のこの苦しきも、あなたが許して下さいましたことに、あなたの御旨をはかり知ることには決してできませんが、必ず、あなたに私の考えと思いに超えるあなたの素晴らしい計画があることを信じます。ですから、神様ご自身が全てを任せ、御心通り、全て解決し、最善に導いてくださるように御手にゆたねます。”彼はきつといつも神様の御前でこんな祈りをささげ続けたのではないのでしょうか。

愛する信仰の家族のみなさん！詩篇121-2篇を読むと「1私は山に向って目を上げる。私の助けは、どこから来るのか。2私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」ような信仰をエフタがしっかりと保っていたでしょう。神様はエフタにチャンスを与え、イスラエルの指導者として立たせ下さいました。世の人たちはエフタのうわべだけ見て、遊女の息子だと無視し、彼を見捨てましたが、神様だけは彼の心の中心を見ておられ、彼をさらに祝福し、彼の人生に恵みを施して下さいました。ですから、神様の御前では自分の出身、家の環境、学歴、財力、収入、能力などは重要なことでは決してありません！人はうわべを見て人を評価したり、比べようとしますが、神様はその人の中心にある本当の信仰！つまり、神様への信仰がはっきりあるかどうか、どんな信仰の生き方を持っているかのみが大切であることを決して忘れてはいけません。

ですから、クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！信仰が一番大切です。信仰が最優先になるべきです。今年、コロナの状況が続いても、治まっても、どんな場合にも揺るがない信仰をもって今年一年も神様のみに信じ続けて歩みましょう。決して、目の前の現実ばかりを見て、神様を除かないで下さい。忘れないで下さい！

私たちが最近毎日、読み続ける御言葉があります。苦しくて、疲れ果ててしまった時、いつも暗唱する御言葉があります。みなさんご存じの詩篇23篇の御言葉です。「1主は私の羊飼いです。私は、乏しいことはありません。」から始まる有名な箇所です。エフタにこの詩篇23篇の箇所から一番力となった箇所を選ばせたなら、きっと4節-5節の御言葉ではなかったのかと思います。「4たとえ、死の陰の谷を歩むとしても、私はわざわざを恐れませんが、あなたがとともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。5私の敵をよそにあなたは私の前に食事をととのえ、頭に香油を注いで下さいます。私の杯はあふれています。」

#### <まとめ>

愛する信仰の家族のみなさん！そうです！苦しみの中、しばらく苦しみが続いているコロナの状況の中でも、今日エフタのような神様に委ね続け、頼り続け、見上げ続ける信仰！を私たちも毎日確かめ、しっかりと持ち続けて歩んでいきましょう。

自分の状況がしばらく思わぬ状況と現実が続いても“主は私の羊飼いです。私は絶対乏しいことはありません！2主は私を緑の牧場に伏させいこいのみぎわに伴われます。主はわたしのたましいを生き返らせ、御名のゆに私を義の道に導かれます”そしてどんなに今の自分の人生が死の陰の谷を歩いているとしても、神様は私とともにおられることを信じているから、恐れません！落胆しません！信じて日々告白しましょう。今みなさんにどんな苦しみや悩みがあるとしても、神様がエフタにされたように、神様を信じるその絶対信仰を最後まであきらめないで、抱いていれば、後は神がみなさんのその信仰の通り、みなさんを守り、みなさんの人生を逆転させ、ついに神は乗り越えさせ、勝利に導かれると信じます。

今日、ここに集っておられるクリスチャンプレイズチャーチのみなさんも始まった今年一年、まだコロナが続いている困難の中から今年の最後までどんな時にも、神様を見上げる信仰を強く握って、必ず、主がみなさんの信仰の通り逆転させ、かならず勝利に導いて下される神の御力を体験する全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように神の祝福を切にお祈り申し上げます。アーメン！